

潮山神社

[簡易バージョン]

潮山神社は、剣の神である経津主神（ふつぬしのみこと）を祀っています。現在近くの寺下観音に安置されている観音像は、元々この場所にあったものです。QRコードをスキャンしてより詳しい情報をご覧ください。

[詳細バージョン]

潮山神社は、剣の神である経津主神（ふつぬしのみこと）を祀っています。現在近くの寺下観音に安置されている観音像は、明治時代（1868-1912）に政府によって神道と仏教が分離される前はもともとこの場所にありました。境内にはイチョウ（*Ginko biloba*）の巨木が立っています。秋になると、イチョウの葉は鮮やかな黄色に変わり、地面に落ちて神社一面を黄金色のじゅうたんで覆います。

神社本殿の近くには、八戸藩主の家臣、接待宗碩（せつたいそうせき）が死者の供養と生きている人々の繁栄を願って建てた経塚（sutra mound）があります。石柱の下には経文の文字が書かれた小石が埋められています。この地域では、このような石柱が 15 基見つかっています。

付近を流れる小川のそばにあるあづまやのような建物の中には、占いの儀式に使われる水溜まりがあります。占う人は紙に硬貨を乗せて、願いごとをしながらそれを水面に浮かべます。もし紙が沈んだら願いごとが叶うとされています。

潮山神社の先の上り道は、五重ノ塔跡のそばを通過して、丘の上に立つ灯明堂まで続いています。